議事概要

我孫子市鳥の博物館リニューアル基本計画　第4回検討委員会

日　　時	2024年6月6日（木）10:00～11:30
場　　所	鳥の博物館　2階　多目的ホール

出 席 者（ 敬 称 略 ）

検討委員会委員長	小川博委員長
検討委員会委員	鶴見みや古委員、西海功委員、平岡考委員、平田和彦委員、福井彰委員、相良直巳委員
	森俊憲委員、金子直哉委員、神野智尚委員
事務局	
我孫子市鳥の博物館　（館）	森田康宏、木下登志子、木村亜由美、鈴木ひなの、望月みずき、脇水徳之
株式会社乃村工藝社　（乃）	横田 浩志、後藤紳一郎
傍聴人	なし

配布資料

次第

【資料1】鳥の博物館展示リニューアル基本計画（骨子）

次第		概要	発言者
1	館長挨拶		
2	議事		
①	展示リニューアル基本		
	計画（骨子）について		
	・骨子案説明	（資料1により説明）	
		・フロア構成案について前回提示の資料からの変更点について説明。	館
		・骨子案の説明	乃
		・これまでの議論をまとめつつ、展示のあり方など新たに提示されている要素もある。	委員長
		最初に骨子案に書かれている内容について、次に加筆すべき内容についての順に意見をお願	
		いしたい。	
	質疑応答	・P2に「日本で有数の鳥類専門の博物館」というくだりがあるが、鳥類の博物館は他にないの	平田
		で自信を持って「唯一の」という表現にしたほうがよい。今後の予算措置の面でも有効と思う。	
		・P1の鳥の博物館の理念のところで、「人と鳥の共存」としている。P2では、「人類史以前に	森
		絶滅した鳥と、人間活動により絶滅した鳥が同列に」という表現がある。P6では「鳥と人との共	
		存」とされている。開館当時はどう話がされてきたのか伺いたいが、当館は鳥が主役の博物館	
		なので、「鳥と人との共生」がふさわしいと思う。	
		・「人と鳥の共存」の文言については当時の経緯はわからない。唯一という表現については、特	館
		定の鳥類種や特定の地域をテーマとして扱っている鳥類の博物館は出水など他にもあるが、	
		鳥類全般について地域を限定せずに扱っている鳥類の博物館は唯一であるため、検討する。	
		・鳥と人というと鳥が主体となり、人と鳥というと人が主体になるが、人と鳥としたほうが鳥に興	西海
		味を持っていない人も含め、人との生活と密接に係わっているという意味でもよいと思う。	
		我孫子野鳥を守る会でもジャパン・バード・フェスティバルなどの様々なイベントの場で『人と鳥	相良
		との共存を目指して』のタイトルで啓発活動を行っている。どういうタイトルが適切か何度も議論	
		したことがあるが結果として『人と鳥との共存を目指して』となった。当会としては人を主体とし	
		て環境を守っていくというようにしている。	

		・ひとはく（兵庫県立人と自然の博物館）がどう名付けているか調べる必要はあるが、千葉県立	平田
		中央博物館の常設展示では「自然と人間のかかわり」というコーナーがある。自然の中に人が	
		生かされていると思われる。本来、併存の方がよいと思うし、一方で、人を出した方がよいと思	
		う。ここではひとはく、千葉県立博物館の事例もあるということをお伝えしておく。	
		・唯一の表現については、唯一の後の書きぶりを工夫すればできると思う。鳥類学の扱う幅の	
		広さに落として唯一という表現をすればよいと思う。	
		・P1の「人と鳥の共存」の後ろの英語は当初withだったと思うが、日本語を丁寧に考えて英語	平岡
		はサブでよいと思う。	
		・P1の4つの基本方針について、「鳥の科学と我孫子の自然の情報センターとなる博物館」に	
		ついては、以前からどちらかにあたるかということで現場の方はどちらに重点を置くか悩んでい	
		たかもしれないが、4つは広く扱っているので記載しているものでよいだろう。	
		・P5のデジタル技術のところは、デメリットの記載も大切なことで、お金さえ積めばハイテクな	
		ものは入れることはできると思うが、学芸員がどのような内容を示していくかが大変であり、	
		また、例えば、キジバトのディスプレイフライトのいい動画を一週間で撮ってと言われてもなかな	
		か難しい。そうすると、他のところで撮ったハイテクの動画を借りて入れるとなるとつまらなくな	
		る。ハイテク万歳ということではなく、やはり、そこは展示会社さんだけでなく館の人、鳥のことを	
		わかっている人の情熱や頑張りで大きく変わると思った。	
		・P7のインクルーシブは、包摂の考えであるが、障害のある方などがトレンドだと思うのでで き	
		る限り取り入れるべきだと思う。中の人が何をやりたくてどう見せたいのかを含めた中での全体	
		の設備はこうしていくべきというものだろう。	
		・標本関係で思ったことは、よその博物館で貸し出しもしているのではないかと思った。学術面	
		も考えているということを少し触れてもよいように思ったが、施設に関することではないので感想	
		である。	
		・P5「デジタル技術を活用した展示」は、メリットを3つあげているが、4つ目として、インタラク	相良
		ティブで双方向でできるという対話型展示のメリットも追加すべきであると考える。来館者が双	
		方向で対話型に参加できることはそのこと自体で大きな価値を生むと考える。	
		・加筆すべき内容の発言も出てきているようだが、意見でも加筆すべき内容でもよいので発言	委員長
		してほしい。	
		・P8多目的ホールは窓も大きい、日光、環境の問題が大きいところ、窓にも空調設備もあるの	福井
		でそのあたりも何かしら対応するような配慮を書いてもよいだろう。	
		・収蔵展示のことについて、収蔵庫と同じ保存環境を展示ケースで確保するか、特に企画展示	森
		室のケースの空調がどうなっているか、多目的ホールの環境がどうかと思う。そのあたりはコ	
		ストとの兼ね合いもあるので事務局で検討した方がよい思う。	
		・確かにこの多目的ホールは窓が大きく標本を展示するには注意が必要だが、窓をUVカットす	館
		るとか、ケースをそういうことに対応するとか、空調も温湿度も収蔵庫に準じる形になるべくして	
		いきたいと思う。	
		・学校関係者の視点で質問したい。P6「わかりやすい展示・解説」の中の複数のプログラムを	神野
		提供するとはどのようなイメージか伺いたい。学校で事前事後の学習があるので。	
		・インクルーシブのところで、貸し出し用展示キットのイメージはどのようなものか。	
		・P11のホームページをもっと欲しい情報にアクセスできるようにというところがあるが、ホーム	
		ページにないものを見にきてということなのか、情報を全て掲載するということなのか。どのよう	
		なイメージをさしているのか伺いたい。	

		・複数のプログラムは、例えばクイズで入門編とかマニア向けのようなレベル分けして各レベル	乃
		の設問を用意して出題ができるようにすることも考えられるというイメージ。	
		・貸し出し用キットは、既に3Dプリンターを導入の際に、足の形や頭の骨格の違いなど学校教	館
		材として使えないか考えていた。3Dプリント以外にも例えば羽であったり、鳥の構造などを勉強	
		するものを色々と学校以外でも貸出しできるのではと思っている。	
		ホームページについては、できるだけ情報を入れようということで取り組んでいるが、階層が深	
		かったり、必ずしもわかりやすいとは言えないものになっている面もあるかと思う。全部入れな	
		ければいけないのか、ここにこなければいけないのか、そのあたりのメリハリは今後検討が必	
		要と思うし、効果も考えていきたい。学校の要望などあれば寄せていただければと思う。	
		・気になる点として「デジタル技術を活用した展示」のところで、紙に表現してパネル化した展示	鶴見
		物は更新が難しいと思うので電子ペーパー的なものを活用することで学芸員が手軽に書き換え	
		られるものがよいと思う。	
		・人と鳥の共存とあるのは、具体的にはP9鳥の保全のところで扱うということでよいか。	
		日常的に人は鳥を食べるといった行為など、人と鳥は深くかかわっているので、人と鳥との関	
		係を考える展示もあってよいと思う。例えば、企画展で扱うということかもしれないが、鳥を人は	
		どう活用しているのか。そういった展示があってもいい。	
		・子どもを何回か連れてきたことがあるが、ミュージアムショップを一階にするということについて	金子
		は、グッズを売っているのが外から見えると入りやすいと思う。	
		・加筆すべき内容について発言してほしい。	委員長
		・デジタル技術のところで、コンテンツが大事という発言もあったが、かはく（国立科学博物館）	西海
		では１１月に特別展を行うが、他館の貴重なはく製を扱うのがなかなか難しい。一つの方法と	
		して例えば、デジタルで投影して3Dで見せるという方法があると思うが、まだなかなか手に入	
		らないことが多いので鳥の博物館が3Dデータを積極的に扱うことを検討できるようであればお	
		願いしたいと思う。	
		・3Dデータについては、鳥のはく製は2点、頭骨、部分的なパーツ１０点程度あり、今後もデジ	館
		タルデータを増やしていきたい。	
		・コンテンツの充実のところで、館の内部資料だけだと限界がある。世の中には鳥に関しても	相良
		すばらしいコンテンツが存在する。例えば、NHKアーカイブや国内外の研究機関、大学、出版	
		社、マスメディアなど、様々に素晴らしいコンテンツを所有している。国内唯一の鳥専門の博物	
		館であるのだから、これらの外部機関・組織と提携して鳥専門の博物館として一定条件の下で	
		これら外部資料も提供できるとコンテンツはさらに充実。実物の貸し借りだけではなく、外部と	
		ネットでつなぐことにより、来館者に外部のコンテンツの紹介も可能となる。また、日本で唯一の	
		鳥の博物館として館からNHK等メディアに対して逆に情報提供して協力できるのではないか。	
		相互協力の関係をこういう機会に創っていくとさらに素晴らしくなると考える。	
		・P１１のバックヤードの充実として、学芸員の補助業務を担う市民スタッフの拡充のようなことを	森
		書いてもよいと思う。館の活動を理解してもらう意味でも発信するのがよいだろう。	
		・P１２収蔵庫増設のところは、展示準備室、資料の作業場を館内なのか外なのか作業場の充	
		実も加筆したらどうか。	
		・市民スタッフは現在２０名前後いて、野外観察会もしくは、展示案内スタッフとして活動してい	館
		る。ホームページで発信した方が確かに活動しやすくなると思うので検討する。	

		・書庫のような所はあるか？	鶴見
		・学芸員室の奥に書庫がある。	館
		・書庫のスペースはどこの施設でも足りないということを聞いているが、将来的にはより広いス	鶴見
		ペースを確保するといったことも考慮できるとよいと思う。	
		・今の骨子案に追加したほうがよいものがあれば発言してほしい。	委員長
		・収蔵庫増設については、スペースの問題と、浸水の恐れがあると思う。いつ浸水するかという	西海
		のはわからないもので1階に収蔵庫を置くのは危険なので本来は改善が望ましいが、今後の	
		課題という形で、2や3階へ上げるようなオプションがあげられると本当はよいと思う。そのあた	
		りはどうか。	
		・もともと展示のリニューアルというところでスタートしていて、それとは別に収蔵庫の課題は以	館
		前から把握していた。とくに浸水については年々そういうことがある中で今回このような意見を	
		いただいているが、館は敷地一杯に立っていて、一部敷地を山階鳥類研究所にも借りている	
		状況。展示スペースをつぶして収蔵庫にするとなると、スペースが少なくなってしまう。	
		今回の中では展示スペースをつぶしてというのは想定しないでここまできた。	
		・これから主要な展示アイテムを検討されていくところで、展示の効果的な見せ方についてこの	委員長
		ホールの活用も含めて考えてきたと思うが、その他にも何か効果的な見せ方があれば提案な	
		どお願いしたい。	
		・什器の関係について、多目的ホールは什器を一新されると思うので、移動什器を作ったらどう	福井
		か。多目的ホールでレクチャーをする際などにワゴンのようにテーブルを出して標本を見せる什	
		器も予算との兼ね合いで検討してみるのもよいと思う。	
		・手賀沼の鳥は、現状の展示が1980年代当時のものになっているということだが、時間の経	神野
		過と共に変わっているというところも見せてもらえると、このように変わったのは何故だろうと	
		か、そのような疑問もわきやすく、子どもたちが見たときに、色々な視点を持てるのではないか	
		と思う。今と比較する展示があってもよいと思う。	
		・手賀沼の鳥ということで、例えば、ライブカメラで誘導できるとか、ここで展示しなくても良いが	委員長
		スマホでライブカメラが見られるようなことも考えられると思った。	
		・博物館法が新しくなり、観光の視点が加えられたが、研究はかなり積極的に残していかない	平田
		と、博物館の大事なところなので、我孫子市としてあるいは学芸員がどう考えるか守るべきも	
		のは守るべきだし新しい法律に則って進めなければならないと思うが大事にしてほしいと思う。	
		・この骨子案が今後計画書になっていく。そういった中最後のページに事業スケジュールが書	館
		いてある。令和8、9年度は、他事業として五本松運動広場の整備や、湖北の消防署、また小	
		中一貫校整備などここ数年で多額の予算を使う予定もある。そういった中でこの計画書が重要	
		なものであり、博物館整備について全庁的に強力にアピールできるようにしていきたいと思うの	
		で次回の検討委員会でも意見を伺いながら、鳥の博物館の計画を魅力的なものにしていきた	
		い。	
		次回の検討委員会は9月を予定。	
		以上	